

教育方針・主要な施策	総務・学校教育課	R 元年度点検・評価委員会の意見（・）と質問（○） *質問については、事務局回答としています。
<p>1. コミュニティ・スクールを基盤とする保・小中一貫教育を推進するとともに、地域と協働した「まち未来科」の学びを充実・発展させます。</p> <p>(1) 中学校区コミュニティ・スクールの推進</p> <p>(2) 保育園年長児からの「まち未来科」(10年プログラム)の実践と検証</p> <p>(3) 4者対話による学校づくり会議の実施</p> <p>(4) 「協同学習」の充実</p>	<p>○地域とともに歩む学校づくり推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区運営委員会の成果をもとに、小中一貫教育の視点も踏まえ、中学校区運営協議会の導入やあり方の検討をすすめた。「まち未来科」の目標系統図を改訂し、コミュニティ・スクールを基盤とし、学校と地域の協働した取組が充実するよう10年間の学びを整理した。活動を伝えるたよりの発行や防災無線でのボランティア募集等、コミュニティ・スクールの周知を図った。</li> </ul> <p>○学校経営校長戦略事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校および中学校区別の課題を明確にし、小中合同の授業研究会の開催等小中一貫教育の視点をふまえた取組や特色ある学校づくりの充実を図った。</li> </ul> <p>○未来を切り拓く人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興協議会と連携し「梨のコンポータベル」を作成した。キャリア教育の一環として、両中学校合同で京都大学清水と清水寺の視察を行った。令和元年度の参加人数が2名にとどまったため、次年度は日程を検討する。</li> </ul> <p>○保小中連携推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の観察や保護者相談、支援の提案などにより、特別支援教育の視点で保小中連携の強化を図った。</li> </ul> <p>○幼児教育・保育専門員配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士研修や研究保育、園経営の充実を支援するこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の推進とコミュニティ・スクールは一体的に取り組むことが重要だと言われています。中学校区CSも保小中の連携を充実させて推進してほしい。</li> <li>・「まち未来会議」は義務教育の集大成の一つと考えている。生徒達の故郷に対する意識が育ち、深まっていると思う。調査、研究のための時間数を増やすことができないだろうか。</li> <li>・「まち未来科」の事業は、とてもすばらしい。生徒達が実際に思い、考え、進めていく中で、より町内について知るきっかけとなり、興味を持つことができ、また提案されたものが実施されたら、より思いが強まり、今後の成長の糧の中で、心強いものとなる。</li> <li>・4者対話による学校づくり会議の実施では、普段子どもと共に同じ課題に向けて一緒に話すことがないので、子どもの思考に感心する。一方で、保護者の参加が少なく、残念である。</li> <li>・芸術文化事業では、プロの演奏家を講師として招くなど、本物に触れる体験が大切である。</li> </ul> <p>○中学校区学校運営協議会の取り組みは、具体的にはどのようなものをなされたのか。</p> <p>→(事務局回答) 令和元年度は法勝寺中学校区がスタートし、南部中学校区は丁寧な準備をすすめてきた。中学校区単位では、めざす子ども像や課題、その解決のための取組などを、9年間を見通しながら共有することを重視し、各校の活動の計画(戦略)や振り返り・改善の協議等を行っている。</p> <p>○地域コーディネーターの配置と職務内容についてお聞きしたい。</p> <p>→(事務局回答) 全校に配置しており、支援活動と学習をつなぐ、ねらいや思いを共有するなど、協働活動をより豊かにするための役割を担って</p>

	<p>とにより、幼児教育・保育の質の向上を図り、保小連携・接続の強化につなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な就学と児童一人ひとりの自己発揮につなげるため、特別支援教育及び保育の質の視点で保小連携・接続の強化を図ることが不可欠である。</li> </ul> <p><b>○教職員用パソコン整備事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員用パソコン 110 台を最新の OS に更新し、セキュリティ維持を図った。あわせて各校のサーバーを、法勝寺庁舎電算室に移設し、管理の一元化とセキュリティの更なる強化を図った。</li> </ul> <p><b>○児童生徒を対象とした芸術文化事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西伯小で「となりの打楽器と踊り」、南部中で「狂言」をテーマに鑑賞会を開催した。本物にふれる体験を通して世界をひろげる機会を設けることができた。</li> </ul> <p><b>○外国語指導助手（ALT）配置事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校区に 1 名配置し、実践的な英語教育に取り組んだ。また、小学 3・4 年生を対象に公民館活動として英語クラブを開設し、英語に慣れ親しむ環境づくりをすすめた。</li> </ul> <p><b>○学習支援員配置事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7 名配置し、特別な支援を要する児童生徒に指導補助としてかわり、学力向上・社会性の育みにつなげた。長期休業中は園に、臨時休業中は放課後児童クラブに派遣し、運営を支援した。</li> </ul> <p><b>○学校司書雇用事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校に配置し、児童生徒や教職員の実態や要望に応じた図書館環境整備、資料提供などを公立図書館と連携して行い、学習の多様化・活性化・充実を図った。</li> </ul>	<p>いただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校経営校長戦略事業の執行率が 67.47% とあった。学校課題の解決するための事業だが、執行率が低かった要因は何か。</li> <li>→（事務局回答）県の事業の活用、他市町村と日時を合わせた開催で、講師謝金や旅費が軽減したため。また、新型コロナウイルス感染症流行により、年度末の県外出張を中止したため。</li> <li>○学校経営校長戦略事業で特色ある学校づくりについて教えていただきたい。</li> <li>→（事務局回答）ALT を招聘した全校外国語活動の実施、英語検定ジュニアの受験、小規模特認校パンフレットの作成などである。</li> <li>○外部講師を活用した「心を育てる授業」の実施状況と内容についてお聞きしたい。</li> <li>→（事務局回答）小学 5 年生から中学 3 年生を対象に行っている。幼児教育専門家や看護師、助産師を講師とし、発達段階に即して、命の大切さや、相手や自分を大切にすることの授業を行った。</li> <li>○「まち未来科」での提案で、「梨のコンポートラベル」以外で実施されたものはあるか。</li> <li>→（事務局回答）令和元年 5～6 月に実施された全世帯対象の防災アンケートは、提案をうけて総務課が行ったものである。また、「まち未来会議」で小松谷盆踊りが取り上げられたことをきっかけに、中学生の参加が増えたと聞いている。予算化されなくても提案を受けて実施されるものが増えてきている。</li> <li>○「まち未来科」の目標系統図の改訂は、年長児からの 10 年間の学びの整理であるか。</li> <li>→（事務局回答）年長児に育みたい力を加え、10 年間の学びの系統性を示した。</li> <li>○保育園年長児の「まち未来科」はどのように進められているのか。</li> <li>→（事務局回答）目標系統図に新たに加えた育みたい力を意識しながらさまざまな遊び、日々の生活を実践していくことで「まち未来科」を進め</li> </ul>
--	---	--

		<p>ている。</p> <p>○4者対話による学校づくり会議を生かした取組があるか。 →(事務局回答)すぐに何か行うばかりでなく、児童生徒・保護者・教職員・地域住民の4者がつながりを深めることで学習環境をより豊かにすることを大切に開催している。一人一人が意見を出しやすい場の設定や流れにし、4者のつながりが深まる工夫をしている。</p> <p>○英語教育の実施で、その対応に努力されているが、苦勞されている事項はあるか。 →(事務局回答)小学校英語専科教員を配置し、町内全小学校で授業を行った。小・中学校担当者会を開催し、小中連携の充実・強化を図った。</p>
<p>2. 子ども達が安心して学び、お互いに認め合い、高め合える保育・教育に取り組みます。</p> <p>(1) 不登校の未然防止、いじめ根絶に向けた取り組みの充実</p> <p>(2) 保・小中一貫した人間関係づくり学習の推進</p> <p>(3) 縦横のネットワークによる子ども支援体制づくり</p> <p>(4) 食育のビジョンづくりと実践</p> <p>(5) 学校給食調理業務委託事業</p>	<p>○不登校対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と支援センターが連携し、再登校の働きかけや進路保障を行った。また、国立音楽院を主たる学習の場とする生徒に適切な働きかけを行った。</li> <li>・国や県と同様に、本町でも不登校数が増加している。今後も、多様な背景の把握、適切な対応をチームで行っていく必要がある。</li> </ul> <p>○スクールソーシャルワーカー活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・55名の児童生徒を対象に、学校の要請に応じた即時的な動きにより、福祉の視点を効果的に導入できるよう支援した。また、ケース会議についての研修会を行い、校内体制の確立につなげた。</li> </ul> <p>○少人数学級対応事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会見小1・2年、法勝寺中1・2年、南部中1・2年で実施し、学級経営、授業実践の充実を図った。</li> </ul> <p>○特別支援学校通学支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関等による通学が困難な児童生徒の送迎支援をすることで保護者の負担軽減を図るとともに、安心安全な通学を確保した。本年度は3名の児</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策事業はよく頑張っていると思うが、不登校等の人数は昨年よりも多い。社会的要因が多様な今日、予算の増額が求められないか。</li> <li>・不登校の問題は、南部町の大きな課題だと思う。教育委員会のみならず関係機関のしっかりとした連携が大切となるので、協力していただけるような町民への働きかけがあってもよいかと思う。</li> <li>・国立音楽院南部校の生徒は、個別、適切な指導により、ゆるやかな再登校ができています。</li> <li>・下校時のメロディチャイムは防犯対策においても効果があると思う。今後も続けていただきたい。</li> <li>・少人数学級対応事業は、町の自主財源からの負担も生じることになるが、行き届いた学級運営のために評価したい。</li> <li>・特別支援学校通学支援事業において、本来なら校区内の学校に就学すべき子どもたちである。安心・安全な通学支援の継続を望む。地域の方や同級生、町内の子どもたちと疎遠にならないようにしていただきたい。</li> <li>・西伯、会見のそれぞれの地区に主任児童委員がおられる。意見交換の場を持ってもらうことを望む。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に伴う3月の臨時休業の支援として、1ヶ月の給食費相当額を対象世帯に給付されたなど、コロナ禍に起因する諸対応に感謝申し上げます。</li> </ul>

<p>(6)食物アレルギーへの適正対応</p> <p>(7)給食費の滞納処理</p> <p>(8)給食センター施設・設備の改善</p> <p>(9)学校給食センター運営委員会の開催</p>	<p>児童生徒の特別支援学校への通学支援を行った。</p> <p><b>○児童生徒送迎車両運行事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の休日の登下校、部活動の合同練習、会見第二小児童の放課後練習（水泳・陸上）等の送迎を行うことにより、教育活動を支援した。（年間78回）</li> </ul> <p><b>○学校施設環境改善事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、教職員及び地域住民の日常的利用と避難所として開設された際に安全かつ安心な環境となるよう、2年間で小中学校体育館の和式トイレを洋式化する計画である。1年次の本年度は法勝寺中学校体育館の3基を洋式化した。</li> </ul> <p><b>○学校主事雇用事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4校に配置し、学校の環境整備や給食受配・食数管理、文書の送達など、円滑な学校運営の一翼を担った。</li> </ul> <p><b>○給食センター運営事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全町で29名の児童生徒に食物アレルギー対応をするとともに、「学校における食物アレルギー対応方針」の見直しを行い、各学校において一貫した対応となるよう整理・調整を図った。</li> <li>・給食費の滞納処理について、滞納者リストをもとにした個別訪問の継続、納付相談、就学援助制度との連携など徴収率の向上に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業の際、喫食数に基づく精算を行うとともに、給食食材納入事業者への支援として実費弁償等を行った。</li> <li>・「おにぎり給食」、「弁当の日」を通して小中学生の食の自立を図った。</li> </ul>	<p>○不登校の児童・生徒が登校できるようになった事例はあるか。</p> <p>→（事務局回答）令和元年度は不登校であった3名の児童生徒が令和2年度に学校復帰をした。学校、保護者、福祉部局等との密な連携が本人の思いを後押しし、学校復帰につながった。</p> <p>○さくらんぼの活動についてお聞きしたい。</p> <p>→（事務局回答）子どもの自主的活動が大前提である。それを見守り、支援しながら、時間をかけて子どもと学校を結びつけるようにしている。</p> <p>○昨年、国立音楽院に在籍する生徒の話が出ていた。その後の役割の大きさや居場所づくりの具体例についてお聞きしたい。</p> <p>→（事務局回答）国立音楽院、教育支援センターとも子どもが安心できる居場所、多様な学びの場としての役割が大きい。令和元年度は1名の生徒が国立音楽院を拠点に南部中学校に在籍した。令和2年度は2名に増え、そのうち1名はほぼ毎日登校している。</p> <p>○会見小には情報教育主任（P91）が設置されているが他校の状況は。</p> <p>→（事務局回答）全校、情報教育主任が位置づけられている。</p> <p>○「子ども食の未来推進会議」の概要は。</p> <p>→（事務局回答）食育の課題、つきたい資質・能力に関する意見を出し合い、整理しているところである。</p> <p>○学校における食物アレルギー対応をどのように見直したのか。</p> <p>→（事務局回答）児童生徒の安全を第一に考え、給食センターによる対応の違いを整理し、統一化を図った。</p> <p>○「おにぎり給食」「弁当の日」などにより、高学年は食育が馴染んだように見受けられるが、食に対しての意識の違いが見受けられるか。</p> <p>→（事務局回答）低・中学年は保護者と一緒に作ることを楽しむ姿が見られる。高学年から中学生になると慣れてくることもあり、作ることができる料理の幅が広がったり、計画を立てる段階から楽しんだりしている。また、自分が食べられる量が分かり、適切な量を持参する姿も見られる。</p> <p>○減塩の日、減塩給食についてお聞きしたい。</p>
--	---	---

		<p>→(事務局回答)健康福祉課と連携し、町の健康課題に学校教育もともに取り組んでいるものである。月1回、減塩メニューが給食に出されたり、町栄養士が児童生徒に話したりし、理解啓発を図っている。</p> <p>○学校施設環境改善事業に関して、小中学校のトイレの洋式化についてお聞きしたい。</p> <p>→(事務局回答)令和元年度、法勝寺中学校体育館のトイレを洋式化した。令和2年度には、南部中学校体育館、会見小学校体育館を洋式化する予定であり、全校の体育館における洋式化が完了する。</p> <p>○会見小学校セカンドスクールの目的、期間、場所についてお聞きしたい。</p> <p>→(事務局回答)5年生を対象に、大山青年の家において、9月4～6日2泊3日を実施した。①子ども同士のかかわりを通し、互いのいいところ・自分のいいところがわかる ②互いの意見を尊重し合い、活動に生かすことができる ③公的な場、私的な場をふまえ、集団行動やルールを守った行動ができる の3点をねらいに、野外炊飯やテント泊、座禅体験、家族への手紙などの活動を行った。CS委員、社会教育委員の方の協力・参画により、学校と地域が連携・協働して実施した。</p>
<p>3. 0歳からの保育の質を高め、保育と学校教育のつながりを強化するとともに子どもが育つ地域環境の整備をすすめます。</p> <p>(1) 保育士研修の充実</p> <p>(2) 園の経営マネジメントの確立</p> <p>(3) 研究保育の推進</p> <p>(4) 関連部局・機関と</p>	<p>○幼児教育・保育専門員配置事業(再掲)</p> <p>○保小中連携推進事業(再掲)</p> <p>○児童生徒就学援助・奨励事業</p> <p>・就学援助制度について、小中学校全世帯への案内のほか、他課と連携し周知を図った。援助率は、昨年度より1.9ポイント上がり、13.5ポイントとなった。新型コロナウイルス感染症に伴う3月の臨時休業の支援として、1ヶ月の給食費相当額(小4,300円、4,900円)を対象世帯に給付した。</p> <p>○黄色い帽子・レインコート購入助成事業</p> <p>・購入額の半額を助成し、保護者の負担軽減を図るとともに、児童の安心安全な通学確保に努めた。</p> <p>○通学定期券発行事業(小・中学校)</p>	<p>・特別支援教育コーディネーターの役割は重要と考える。補助金申請との兼ね合いもあるだろうが、活動範囲の拡大を望みたい。</p> <p>・保小の引継ぎの充実により、特別な支援を要する子どもたちの就学指導が適切に行われ、小学校入学後の学習が進むと思う。</p> <p>○南部町版保育要録の実践状況の様子をお聞きしたい。</p> <p>→(事務局回答)保育要録は小学校に送るということから保小引き継ぎの充実のための1つの手段であるが、本町ではそれ以外に保育の質の向上という点も重視している。年度当初、個人の指導の重点を記入するようになっており、就学前の1年間、それを意識して保育にあたっている。</p> <p>○部活動支援事業における教職員のかかわりをお聞きしたい。</p> <p>→(事務局回答)部活動指導員2名及び運動部活動外部指導者4名を配置し、専門的知識や技術を基に指導を行った。部活動指導員は、単独での指導や大会引率が可能であり、教職員の部活動に関わる時間や負担の軽</p>

<p>の就学支援連携強化 (5) 保小引き継ぎの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童156名、生徒7名に通学定期券を支給し、安心・安全な通学ができるよう支援した。そのことにより、学業に専念できるとともに、保護者の不安や経済、労力など、あらゆる負担の軽減につなげた。</li> <li>○<b>高校等通学定期券助成事業</b></li> <li>・本年度は119名の申請があり、定期券及び回数券購入費の半額を助成することで、保護者の負担を軽減し、公共交通機関の利用促進及び定住促進に努めた。</li> <li>○<b>部活動指導支援事業</b></li> <li>・学校のニーズに基づき、部活動指導員2名及び運動部活動外部指導者4名を配置し、より一層の指導の充実、教職員の負担軽減に努めた。</li> <li>○<b>教育振興助成事業</b></li> <li>・南部中学校、法勝寺中学校の部活動において、全国大会（3大会）、中国大会（5大会）に出場する生徒に対して、運搬経費、旅費、大会参加費の補助を行うことで、経済的負担削減を図るとともに生徒の健全育成につなげた。</li> </ul>	<p>減にもつながっている。</p>
------------------------------------	--	--------------------